

親子で寄せ植えIN鶴城丘高

クリスマスに向けて寄せ植えに挑戦

12月9日に、鶴城丘高校で「親子で寄せ植えIN鶴城丘高」が行われ、親子など5組が参加しました。テーマは「クリスマスのコンテナガーデンを作ろう」。講師を務めた同校の教員や生徒のアドバイスを受けながら、ポインセチアやガーデンシクラメン、プリムラなどをバランスよく配置して寄せ植えを作りました。参加した男の子は「カラーサンドをガラスの容器に詰める作業が楽しかった」「作品は持ち帰って家に飾りたい」とうれしそうに話してくれました。



愛知県市町村対抗駅伝競走大会

つなぐたすきに思いを込めて

12月2日、長久手市の愛・地球博記念公園で愛知万博メモリアル第12回愛知県市町村対抗駅伝競走大会が開催されました。県内54市町村のチームが、小・中学生、ジュニア、一般、40歳以上で構成された9区間28.7kmのコースで競い合いました。大会に向けて厳しい練習を重ねた西尾市チーム。9人が懸命にたすきをつなぎ、市の部12位でゴールしました。4区の小学生女子の部では、矢田小学校の坂田朋花さんが見事区間賞を獲得しました。



環境 Wave21

ごみの減量とリサイクルの推進



環境への理解を深めるイベント・環境Wave21が12月3日、ホワイトウェイブ21とクリーンセンターで行われました。企画の段階から環境団体などが参加するこ

のイベントは今年で16回目。クリスマスキャンドル作りや迫力あるステージ、ごみの分別体験などさまざまな催しが行われ、終日多くの人でにぎわっていました。

県内で唯一の屋外スケートリンクがオープン

三河湾を眺めながら、氷上スイスイ

愛知こどもの国あさひが丘駐車場内に12月9日、スケートリンクがオープン。子どもから大人まで初滑りを存分に楽しんでいました（2月25日(日)まで営業/名鉄電車を利用して来場すると滑走料金が無料）。



茶祖奉告祭

てん茶産地としての発展を誓う



茶祖の寺として知られる紅樹院(上町)で12月7日、茶祖奉告祭が行われました。明治時代に西尾で茶栽培を広めた、紅樹院の34代住職・足立順道氏の功績をたたえて、西尾市茶業組合が毎年行っているものです。鶴城中学校茶道部の生徒などが抹茶と煎茶を献茶した後、稲垣拓康組合長から晴天が続く高品質なてん茶ができたことや、31年に西尾市で「第73回全国お茶まつり」が開催されることなどが奉告されました。



名鉄西尾・蒲郡線利用促進大会

路線の必要性を再確認

廃線が危惧されている名鉄西尾・蒲郡線（にしがま線）の存続に向けた利用促進大会が11月12日に、横須賀小学校で行われました。中学生や高校生の意見発表などの後に行われた基調講演では、東京都から東幡豆町に移住した藤野貴教さんが登壇。地域が持つ魅力を生かすことの大切さを訴えました。2021年以降の存続が確約されていない「にしがま線」。利用促進活動の成果もあり、利用者は9年連続で増加していますが、今後も地域全体で協力することが大切です。



2017きらまつり

義理と人情のまちがにぎわう



11月11日・12日に、産業と文化を楽しむ祭典「2017きらまつり」が開催されました。友好都市である山形県米沢市や兵庫県赤穂市の物産展、お笑い芸人のステージ、もち投げ、スタンプラリーなど多彩な催しがあり、会場のコミュニティ公園には、2日間で約5万人が来場。地元商店の自慢の品が並ぶ青空市場やくいもん横丁、フリーマーケットでは、店員に商品のこだわりを聞きながら買い物を楽しむ来場者の姿が多く見られました。

第15回西尾城址薪能～大和の神々～

能や狂言の世界を味わう

11月18日、「第15回西尾城址薪能～大和の神々～」が文化会館で行われ、市内外から大勢の観客が訪れました。能の歴史や鑑賞のポイントなどの解説の後、一管、仕舞、狂言、能の順に上演。狂言「福の神」には、狂言師の野村萬斎さんが登場。人々に幸せを授ける福の神を演じ、明るい笑い声を上げて謡い踊りました。能「三輪」では、能楽師の武田友志さんが、美しい女性の姿となって古代神話を語る三輪の神を演じました。観客は華麗な装束を付けた武田さんの舞に見入り、幻想的な物語をじっくりと楽しんでいました。



西尾城シンポジウム4

地震災害からいかに学ぶか



11月18日、西尾城シンポジウム4「西尾城と地震災害」が文化会館で開催されました。第1部では立命館大学客員研究員の北原糸子氏による基調講演「災害と城」、第2部では市史執筆員の鈴木正貴氏と市文化振興課神尾愛子学芸員による報告が行われました。第3部のパネルディスカッションでは、3氏と市文化振興課長がパネリストになり、参加者からの質問に詳しく回答していました。シンポジウムの講演録は4月初旬から岩瀬文庫などで販売される予定です。